

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院・ 教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名：秋田大学教職大学院 共催：教育文化学部附属教職高度化センター、秋田大学教職課程・キャリア支援センター 後援：秋田県教育委員会、秋田市教育委員会 事業名：【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 令和6年度あきたの教師力高度化フォーラム 「探究する子どもを育てるために必要なこと -「学力」のその先へ II -」 研修等名：【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 令和6年度あきたの教師力高度化フォーラム 「探究する子どもを育てるために必要なこと -「学力」のその先へ II -」 開催日時：令和7年2月14日～15日 開催場所：秋田大学（秋田県秋田市手形学園町1-1） 参加人数（総数）と参加者の属性：14日133人（県内23人、県外0人、学内110人） 15日124人（県内62人、県外4人、学内58人）
--	--

目的：

- ・ 前回のフォーラムで、「探究する子ども」とはどういう子どもか、秋田の探究型授業が充実していくためには更に何が必要か、などについて協議が進められたが、参加者から「学力のその先へ」とはどういうことなのかもっと深めたい、という意見が多かった。
- ・ そこで、今回のフォーラムでは、前回の成果を基に、「学力のその先」にあるものを更に深掘りし、秋田の教育の現状と未来について検討する。

内容：

〈講演〉 講師：大分大学大学院教育学研究科 教授 清國祐二 氏
〈シンポジウム〉シンポジスト：秋田県教育庁義務教育課 学力向上・教育情報化推進チーム
チームリーダー 長門 亮 氏
秋田県鹿角市立十和田小学校 校長 石井むつみ 氏
秋田大学大学院教育学研究科 教授 成田雅樹
コーディネーター：秋田大学大学院教育学研究科 准教授 細川和仁
コメンテーター：清國祐二 氏

- ・ 講演では、大分大学大学院の清國祐二教授から、「子どものニーズを見極める教師の役割 -サーバント・リーダーシップを手がかりに-」と題し、Society5.0という新たな時代到来の観点から、サーバント・リーダーシップにはどんなインパクトがあるのか、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るためにはどうしたらよいのか、をテーマに、「欲求」と「ニーズ」の見極めが必要である、学力のその先にあるもの＝「探究する子ども」、「遊び」から生まれるスピノフをもたらすアクティブラーニングが重要である、「学びが自分の中に宿るとき」に子どもの良さを引き出すことができる、というお話があった。
- ・ シンポジウムでは、清國教授の講演をもとに、「探究する子どもを育てるために必要なこと」について、シンポジストそれぞれの立場、すなわち教育委員会、小学校の管理職、教職大学院教員としての考えや、これまでの経験に基づく個人的な見解も含めて話題提供があり、協議が進められた。
- ・ 成田教授からは、学力のその先にあるものは、目的意識・当事者意識、換言すれば社会のニーズを生み出す力であるAgencyであり、これは学びを駆動するものであるが、我が国の主体性の尊重は弱いので、子どもの授業参観や、約束学習や約束評価で主体性を保障することが必要である、というお話があった。
- ・ 長門チームリーダーからは、秋田県教育委員会の取組である①問いを発する子どもの育成、②学力テスト結果の経年変化、③ICTを活用した授業力の向上などについての説明があった。
- ・ 石井校長からは、十和田小学校の取組である「探究する子どもの育成」について、「みんなで分かる」「一人のできる」を実感できる授業づくりや、「失敗も発見だ」という具体的な授業事例を挙げての説明があった。
- ・ コメンテーターの清國教授から「学びが子どもに宿るとはどういうことか」という問いがあり、「学びの見取りが大切である」「調べてもわからなかった、といえる空気感が大切である」という意見が出るなど、活発な協議となった。

成果：

- ・ アンケート結果（回答数39）からは、とても満足24人、どちらかというと満足14人で、合わせると参加者の97.4%が高い評価をしている結果となった。
- ・ 「学び続けることについて、自身の思考を広げる視点をご教示いただきました。学び続けるためのメタ認知としてのリフレクションの在り方について、学びを深めたいとの思いを強くもちました。」「子どもたちと教師が向かう学びのその先を考えるヒントをいただきました。」との声が寄せられた。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

- ・講演やシンポジウムでの協議を通して、参加者がこれまで行ってきた教育実践を新たに価値付けて捉え直したり、新たに発見したり問い直したりすることにより、自らの教育実践の特徴や考えの枠組みや在り方への気付きが醸成される学び、すなわち提案の一つである「豊かな気付きが醸成される学び」となることを期待していた。
- ・アンケートの自由記述欄に、「シンポジウムではお三方から、探究する子どもの育成に向けての示唆をいただきました。授業で問いを立てる訓練をしているか、必要感のある話し合いができていないか、失敗も当たり前と受容できているかなど、これまでの授業を振り返りながら、拝聴しました。単元構想や子どもの見取り、振り返り、学びの有用性などについて校内で共有し、これからの授業に生かしていきたいと思います。」という回答があり、当初見込んでいた成果としての手応えを感じた。さらに、参加者相互の対話を通じた「気付き」が自己の在り方への気付きとなり、参加者の探究を後押しする「探究型研修」となることを期待している。

アイデアや工夫したこと：

- ・講演とシンポジウムは、遠隔地からの参加を考慮して、オンライン参加と会場での対面による参加の2通りの参加方式を継続し、参加者の利便性に配慮した。



＜講師：清國祐二氏＞



＜講演の様子＞



＜シンポジウムの様子＞

- ・研究者と実践者及び教育行政の担当者をシンポジストとしてお迎えすることで、理論と実践の往還にふさわしい討議ができるよう配慮した。



＜シンポジスト：長門亮氏＞



＜シンポジスト：石井むつみ氏＞



＜シンポジスト：成田雅樹＞



＜コーディネーター：細川和仁＞



＜会場の様子＞



＜パンフレット＞

NITS・秋田大学教職大学院コラが研修

令和の日本型学校教育の構築

「探究する子どもを育てるために必要なこと
—『学力』のその先へII—」

第16回

あきたの 教師力 高度化 フォーラム

本フォーラムは1日目と2日目に、「あきた」の授業力を継承、発展させようとする本教職大学院院生が、実践研究に取り組んだ成果を発表します。今年度も、学校マネジメントや主体的・対話的で深い学びなどの現代的な課題に基づく意欲的な発表を行います。

2日目には清國祐二氏による講演「子どものニーズを見極める教師の役割—サーバント・リーダーシップを手がかりに—」並びに「あきた」の授業力を継承するシンポジストによるシンポジウム「探究する子どもを育てるために必要なこと—『学力』のその先へII—」を開催します。

1日目と2日目の発表は会場参加、2日目午後の講演とシンポジウムは会場参加とZoom参加のハイブリッド型による公開となります。

皆様参加をお願いします。

講演者

大分大学大学院教育学研究科教授
元つば中央研修センター長

清國 祐二

期 日
令和7年 **2月14日(金)・15日(土)**

会 場
秋田大学60周年記念ホール
教育文化学部3号館145教室 他

対 象
全国の教職員・研究者・教育委員会指導主事・
研修員・教員志望学生・院生等

日 程

1日目 2月14日(金)

9:30 開場・受付(秋田大学60周年記念ホール前)

10:00 開会行事

10:20 秋田県総合教育センターとの連携による発表
・教職発展演習発表者(学部生)の発表
・秋田県総合教育センター研修員の発表

11:30 昼食・休憩

12:30 研究中間発表(学部卒業生・現職教員院生)

13:30 研究成果発表 I (学部卒業生)

2日目 2月15日(土)

9:30 開場・受付

10:00 研究成果発表 II (現職教員院生)

11:40 昼食・休憩

12:45 講演
「子どものニーズを見極める教師の役割
—サーバント・リーダーシップを手がかりに—」
講 師 大分大学大学院教育学研究科教授
元つば中央研修センター長 清國 祐二

14:10 シンポジウム
令和の日本型学校教育の構築
「探究する子どもを育てるために必要なこと
—『学力』のその先へII—」
シンポジスト
秋田県教育庁生涯学習課学力向上・教育情報化推進チーム 長門 亮
秋田大学大学院教育学研究科 院生 石井 むつみ
秋田大学大学院教育学研究科 院生 成田 雅樹
秋田大学大学院教育学研究科 院生 清國 祐二
コーディネーター 秋田大学大学院教育学研究科 院生 細川 和仁

15:45 閉会